

第一回 湘南高麗山 フォレストツアー

特別ゲスト 菊名エコクラブより 自然観察員の松田照之さん。ツアー親子初参加！最年少2歳。

報告者：NPO地球の緑を守る会 理事・湘南支部長・植生工学士 奥平里美



ヤマモモの木の前で

2014年1月3日(金)

9:30~12:00 高来神社参拝、高麗山散策

12:00~14:00 マクドナルドにてお茶会

参加者 9名(※初参加4名)

地域のパン屋さん、お花屋さん、大学生、高校生。
色々な立場の方にお越しいただきました。

2014年新春！

ここ高麗山は朝鮮半島とも歴史的つながりが深い。また、伐採が禁じられていた江戸時代から続く植生は南斜面に残っており、県の天然記念物に指定されている。「植生調査」「歴史探検」「神社参拝」「山登り」が全てできる素晴らしいスポットだ。

箱根駅伝も復路、平塚でも白熱した応援が注がれている中、少しの曇り空でも暖かい新年のよき日に、湘南支部として初めて「高麗山(こまやま)フォレストツアー」が始まった。

今回は、自然観察指導員の松田さんがゲストでいらして下さり、色々な質問や植物名が飛び交う、ハイレベルなツアーとなった。

初対面の方もいらしたので、まずは神社入り口で、お互いの自己紹介。自分ではなく誰かを紹介する方法で、和やかなムードになった後、「神社参拝は1円玉や100円玉など白いお金で！」という豆知識を入れ、横に生えている樹種の名前を確認しつつ参道を進む。

早速、神社の鳥居についている「ヒサカキ」に目が行く。「なんでヒサカキを飾るんだろう？」と質問に対して、「歩く植物図鑑」の異名をもつ昌斗君(主催者の弟)が、すかさず「神様の木だからですよ。」と答える。

境内に入ると、まずは1人ずつ並び高来神社を参拝だ。高来(たかく)神社の由緒が掲載された看板の前に集まり解説。「7世紀高句麗から亡命した王族がここに社をつくり、後に埼玉へ移動したんですね。」

歴史に思いを馳せつつ、すぐ裏にある珍しい「ナギの木」に注目。

「針葉樹、常緑樹どちらだと思いますか？」
(答えは3P目)

葉の特徴を確認し、落ちて乾燥した実を探し拾って観察。8月に来た時は沢山実が落ちていた場所だ。



木に令と書き、桧(ヒサカキ)・木に神と書き榊(サカキ)。これらはよく神事に用いられる。



オレンジ色の肌をした針葉樹に見えないナギの大木は、看板をつけて保護したいくらいに立派であった。





境内から出て階段を上ると、左右に道が分かれる。左へ行くと険しい男坂。右へ行くと緩やかな女坂。女坂へと進む。

山道では、雑木林が時間をかけて元の姿に戻ろうとしている「照葉樹林帯における二次遷移の様子」を目にすることができた。参加者は斜面を下から眺めながら、自然の森のシステムを学んだ。

歩道一面落ち葉を踏みながら「こんにちは！」、すれ違う人と声を掛け合う登山道。都会の街中では決してない光景だ。

地面を這いつくばりそうになうくらい真剣に植生を観察していると、元気なおじさん・おばさんグループの方が「何やってるの？」と声をかけてくれた。「この土地は、本来どんな森だったのかを調べているんです。この辺りは、カシノキやシイノキに覆われていたようですね。」と話す、「へー」と関心して行かれた。

ベンチがある休憩ポイントでは、健康も大切なので、おヘソセラピーの「のびのび体操」をした後、各自持参したおやつを出し合った。



地面に顔を近づけ、参加者みんな真剣！1つ1つの植物が気になります。名前を覚えると、友達に出会った気分♪

写真を撮ってもらおうと声を掛けた、通りすがりのおばあさんが「高麗山はもう100回くらい登っているわ。色々なコースがあって楽しいのよ。『きんちゃく結び』という登り方もあるわよ。」「これ知ってる？コウヤボウキというの。」と教えてくれたのは、枯れてしまった茎の先に、小さな白いホウキ状になった花のこと。「四季折々の自然を楽しめるのよ。また春に登りにきたらいいよ。」出会いに教わる面白さだ。

終了後は、高麗山を眺めながらマクドナルドでお茶会。それぞれの感想を聞き合い、自然に対する考えを共有し深めることができた。そして夢と目標を語り合った。盛り上がり、2時間近くお話しをして解散。しかし解散しきれず、コーヒー会や、女子会など、二次会へ。自然の中でこそ、心が開放され、絆が深まることを学んだ。



急な段差も一生懸命上る2歳女の子。転んでも泣かなかったね、えらい！



上の方では、パパに抱っこ。道は狭くて危ないことも多かった。こんな環境が、「危機管理能力」を鍛えてくれる。子どものチャレンジに最高の環境！



最後に「シイニッケイ」のところで、スタジイのドングリを拾って食べました！生でもおいしくてビックリ！

大きな「ケヤキ」の木！下は急斜面のちょっと危険な場所で、木に抱きつき！何人かスリルを感じつつ挑戦しました。ここで折り返し地点。下山します。



湘南高麗山の植生図鑑

高麗山の課題

潜在自然植生の樹種の下草※(ベニシダ、ジャロヒゲ、ツタ等)や、低木(アオキ、ヤツデ、トベラ等)や、亜高木(ヤブツバキ、カクレミノ等)、高木(タブノキ、スダジイ、アラカシ、シラカシ、ヤブニッケイ、シロダモ等)が見られた。特にアラカシが多く見られた。※グランドカバーとも言う。

- 道を整備する際に山を削り、人が多く足を踏み入れることで、**表土が露出してしまっているところがある。**
- やっかいな**孟宗竹**、**笹**が目立つ場所もあった。

このまま放置すると・・・

斜面に生えている木々の**樹勢が弱くなってしまう**たり、風化した岩が**落石する危険性**も考えられる。
 また遊歩道がどんどん削れて狭くなってしまふ恐れがある。
 また**孟宗竹**、**笹**は他の植物の成長を妨げ、**地下茎のコロニー**を形成するため、**生態系的に非常に脆い単色林**を作り出す。



改善策

- 斜面に潜在自然植生の**主木**、**シイ**、**タブ**、**カシ**を中心に**植樹し植生を補う**。(補植)木の根を絡み合わせることで、**1本よりも強いネットワーク根**を張り、**斜面の崩壊を防ぐ**。
- 孟宗竹**や**笹**が広がらないよう**駆除**する。
 ※孟宗竹は中国から300年くらい前に入ってきた**帰化植物**。

落葉樹の森から、潜在自然植生の常緑広葉樹の森へ遷移する仕組み。

- 落葉樹が優勢しているところがある。(ケヤキ、エノキ、ムクノキ等)
 エノキなどの**パイオニアツリー(先駆種樹)**は、土地が痩せた所でも生える。落葉により土に**栄養**が戻り、**シイ・タブ・カシ**などの潜在自然植生が戻ってくる。

潜在自然植生とは？その土地本来の樹種のこと。



コウヤボウキの花



モクレイシの実



ナギの実(8月撮影)

登山客のお母さんが教えてくれた高麗山の植物。



シイニッケイの木

なんと、シイノキとヤブニッケイの木が合体している！
何故かは、現場で確認してみよう！



ナギの木(マキ科マキ属)

高来神社にたくさん植えられている珍しい樹種。西日本の暖地にまれに自生し、神社で時々植えられる。こう見ても**針葉樹の仲間**。



表土が露出した部分



落葉樹が目立つ

参加者のご感想に感謝!

「松田さんがいたお陰で、僕がよく分からない下草の名前をたくさん覚えることができました。」(藤沢市・高校生男性)
「普段接することがない人と交流できてよかった!とても楽しかった!私も植生工学士を目指したい。」(平塚市・女性)

「日本の潜在自然植生が、この高麗山にも残っていて嬉しい!土地本来の木や下草。分かる度に感動だった。参加する度に色々な出会いと、考え方を共有できる仲間が地元でできる。それが楽しい。」
(厚木市・大学生女性)

「前日まで仕事で疲れ切り、朝は行きたくないと思った。でも『疲れた時こそ自然に還れ!』だな。体が浄化され、気分もとてもよくなった!」
(藤沢市・会社員女性)

「苗木を売ったり、どんぐりコーヒーを飲んでもらえるお店をつくって、自分ももっと人に説明できるようになりたい!」
(藤沢市・男性)

「一緒にいて安心して自然を楽しめる、地元の仲間ができてとても嬉しいです。それは、自然保護に対しては、色々な考えの違いがあるからです。

都会に住むと『虫が気持ち悪い』と平気で言う人がいます。しかし、それがなくなってしまうのは生きていられないのです。こういった『身近な自然に親しむ』機会を、これからも持ち続けていければと思います。

照葉樹林はなかなか目にする機会がないため樹種もあまり知らなかったのですが、タブノキが分かっただけでなく、トベラやシラカシなどの葉の大きさや鋸歯などにバラつきのあることが分かり勉強になりました。

高尾山でしか見たことがなかったコウヤボウキも見られ、沿岸部の平地に近い山地にも生育していることを知りました。

横浜からだとは平塚はちょっと遠い感じがしますが、少し足を延ばし、また違う季節に来てみたいと思っています。」(横浜市・男性)

「名前を知らなかった植物が分かり、更にそれが土地本来の植生かどうかまで分かって良かった!1人で本で調べながらだと、自分は疲れてしまう。ガイドさんがそこで説明してくれて、みんなで盛り上がりながら自然を歩くのは、楽しさが全く違うと思った。

また、高麗山の道は思ったより険しかったが、子どもに自然に触れさせることができ本当に良かった。少し危険な道などバランス感覚がいる。昔の子どもたちは危険な場所でも遊んでいたのだが、それでインナーマッスルが鍛えられ、危機を察知する能力が自然に磨かれたのだという。しかし、今の子ども達の遊び場は平坦な所ばかりだ。

もっと自分の子ども・地元の子どもの達にも、こういった遊びをさせたいと思った。」(平塚市・男性)

今回いただいた参加費は、 湘南海岸に森の防潮堤をつくるプロジェクト 「湘南1000年の森」の苗木代になります。

3つの絆ができた、ある意味、2013年1年の集大成のようなフォレストツアーでありました。ここまで支えて下さった、理事長神津先生と、天国にいらっしゃる中田育子先生に心より感謝を捧げたいと思います。

～新しい出会いの絆～

10月と12月の講演会で、宮脇先生に質問する度に、新しい出会いがありました。なんと今回はその方達が来て下さいました!それぞれ自然観察指導員やお花屋さんであり、専門性も夢もあり、これから益々活躍されていく方達です!全力で応援していきたいです!

松田さんは潜在自然植生を学ぶため今回きて下さいましたが、私が知らない草花の名前を教えて下さり、自然や生活に対する感性豊かな表現をされ、写真家や詩人のような方でした。あちらこちら国内の豊かな自然を旅され、四季折々の自然を愛される松田さん。意的な私には、羨ましい才能です。また、貴重な経験をお持ちで、お茶会の時間では今後の活動に重要なアドバイスをいただきました。

またお花屋さんの方も、どんぐりを拾いに数回高麗山へ来られており、スタジイのどんぐりをむいて食べさせて下さったりと会を盛り上げて下さいました。

2名の専門家男性が、ツアーの時間をとてもハイレベルにして下さいました。

～森友三姉妹(^^)の絆～

私が声をかける度に参加してくれる、既に「森トモ」の女性2人。いつも私を励まし、勇気づけてくれる存在です。自然の中で友情と心の絆が毎回深まっていきます。あの「森三中」をマネして「森山中」になろうかしら!?(笑)終わった後は、女子会楽しかったです♪

この絆を中心に、「湘南森づくりエキスパート女性チーム」をつくりたいです!

～家族の絆～

いつも明るく参加者の話し相手になってくれる母。

そして、私では対応できないところを、植物図鑑のように質問に答えてくれる弟(次男)。本当に改めて、「このツアーは家族で成功したんだな。」と思い感謝の念が湧きました。今回体調不良で参加できなかった、カメラマンの長男には、次回こそは活躍してほしいです。